

「賀古駅家、発掘ものがたり」 10 <埋設管の正体>



「埋設管のようなもの」の正体・・・溝と瓦

続いて調査対象地の中央部にトレンチを設定しました（3トレンチ）。このトレンチの目的は古代山陽道と賀古駅家の間がどうなっているのか、ということと、地中レーダー探査で発見された「埋設管のようなもの」が何であるのか、を調べることです。

調査の結果、トレンチのほぼ全体にわたって中世の建物跡や溝が見つかりました。それと同時に、地中レーダー探査の「埋設管のようなもの」の正体も明らかになりました。

それは東西方向に向いた溝（SD05と名付けました）で、幅は約60cmあります。「埋設管」と推定されたのは、この溝の中に駅家で使われていたと考えられる奈良時代の瓦が大量に投げ込まれ、埋設管のようになっていたからでした。暗渠（あんきょ）として、排水に利用されたのかも知れません。地中レーダー探査の成果によると、この溝は駅家の中心へと続いているようです。

この結果を受けて、私は一つの仮説を立てました。それは「築地塀で囲まれた駅家の排水のために設置されたもの」というものです。あれこれ考えながら仮説を立て、事実を積み上げてそれを証明していく。これも発掘調査の醍醐味というものです。

ところが、その数日後、私の仮説は見事に否定されました。この溝の下層から奈良時代の溝（SD07）が見つかったのです。さらには中世のものと考えられる柱穴よりも後の時代に掘られたことも明らかになりました。つまり、SD05は駅家の時代の溝ではなかったのです。あきらめきれない私は、わずかな望みをつなぐため、別のトレンチ（5トレンチ）を設定し、さらに仮説を検証することにしました。

ところで、先程さりげなく記しました奈良時代の溝（SD07）ですが、仮説が否定された私は、この時点では、あまり注目していませんでした。駅家と同時代の溝なのに。この溝の重要性に気が付くのはもう少し調査が進んだ後のことでした。

新たな事実の積み重ねと、様々な仮説の検証。この作業を繰り返しながら発掘調査は進んでいきます。